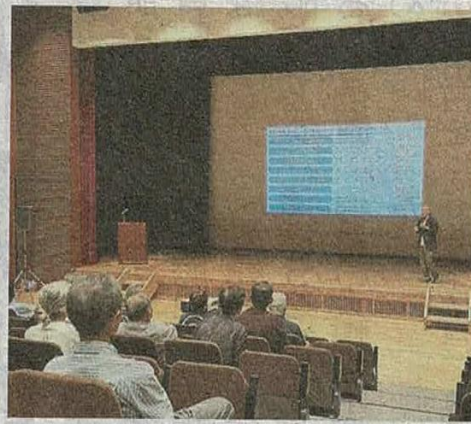


理想の学校像 長野で考える

ドキュメンタリー映画上映と県教育長講演



体験学習を軸に、子どもの主体性を尊重した学びを実践する小学校を取材したドキュメンタリー映画「夢みる小学校 完結編」の上映会が19日、長野市であった。飯山市の一般社団法人「未来社会推進機構」が企画し、約70人が参加。

上映後、県教育委員会の武田育夫教育長が目指す学校像について話し、写真、理想の学校づくりについて来場者と意見交換をした。

映画は、子ども自ら学びや日々の活動を決める「きのくに子どもの村学園 南アルプス子どもの村小学校」（山梨県南アルプス市）などを描いた「夢みる小学校」を再編成し、同学園で中学校卒業を控えた生徒たちが夢を見つけ、

巣立つ姿を追加。自由が守られ、その子らしさが尊重される環境の中で、子どもが学ぶ楽しさに気づく姿を描いた。

上映後、武田教育長は「大人が先回りするのでなく、子ども自らが学び、自発的に成長できる環境づくりが大切」と言及。県教委では、子ども

たちの視点に立って学校づくりを進めるため、学校の仕組みの改革に取り組む公立小中学校を後押しする「ウェルビーイング実践校TOCO-TON（トコトン）」を始めていることも紹介した。

会場からは「（理想の学校づくりには）保護者と教員、双方の意識を変えていくことが大切」など意見が出た。来場した高校教諭の室賀駿吾さん(31)「長野市」は「生徒の個性を生かし、近くで寄り添いながら学び合える場づくりをすることが大切だと感じられた」と話していた。